

スポーツ衣料を通して
社会に貢献する縫製メーカー

期 納
相 相
談 談
企 企
画 画
力 力
自 自
信 信
有 有
コ ス
ス ト
相 相
談 談
試 試
作 作
可 可
小 小
ロ ロ
ッ ッ
ト ト
量 量
対 対
応 応



中国第1工場／縫製作業現場

業務
業内
商社機能を持つ
アパレル一貫システム

売上げの98%が大手スポーツメーカーへのOEM（相手先ブランド生産）だ。布帛織物によるウインドブレーカーなどを中心に、素材・企画提案から縫製までアパレル一貫生産システムを構築している。縫製業でありながら、自ら輸出入を行う商社機能も有している。生産拠点は独資の中国2工場をメインに、ミャンマー工場と日本国内の協力工場を整備。受注内容別に生産を振り分け最適な生産体制を可能にしている。また一部の素材（生地）を、リスクを持って在庫することによって、顧客の要望に沿った仕様を提案し短納期・小ロット生産を実現している。

強み
顧客ニーズに応える
4段階構えの生産体制

スポーツ衣料は継続的な製品在庫が必要な上、チーム単位の品揃えなど多様な生産対応が求められる。同社では受注別に納期やコストをテーマに最適な生産拠点を選定。ロットの大きい製品は中国第二工場、小ロットで加工の難しい製品はメインの中国第一工場に振る。さらにコストを追求する製品はミャンマー工場、短納期・小ロット製品は国内協力工場へと4段階構えの生産体制を確立している。また強みである素材・デザイン提案力を発揮し「OEMからODM（受託企業のブランド



中国第1工場（中国浙江省）

製品企画・生産）へと業態を広げている」と、田上晴久社長は語る。

人材
育成
自己啓発力を促し
有資格者を輩出

同社従業員は営業部6名に対し、生産技術部12名、製造部8名と企画・技術力を重視した構成になっている。そのメンバーには品質管理者や通関士、CADプログラマー、取引先（スポーツメーカー）認定制度取得者など品質・品位で顧客に満足を与え、営業を優位に進める資格・技術を持つエキスパートを育てている。こうした人材の育成には自己研鑽・啓発力の醸成をバックアップする体制とともに、社員各自の行動を認め、責任を持って仕事を託す信頼関係がベースにある。こうした社風が中国工場を含め社員の離職率を下げている。

今後の
展望
中国工場の
生産・在庫管理で効率化

同社は短納期・小ロットへの対応力を強めるため、中国工場および国内強力工場の増床およびライン拡充で生産体制を強化してきた。平成26年度は本社と中国工場をオンラインで繋ぎ、現地状況を把握するシステム構築を中小企業庁の「ものづくり補助金」に採択された。IPVPN（広域IP通信網）による仮想私設通信網を駆使し、平成27年内には中国での材料在庫や生産状況など、リアルタイムでの管理を始める。一層の生産効率化とともに検品や検査体制を強化。さらに「開発生地」の展示会開催やODMに磨きがかかることで市場拡大を目指す。

COMPANY PROFILE

株式会社サンビ

全国25

ISO 9001

当社の
歴史

昭和27年、先代が縫製業を営む「三陽社」を創業。先駆けとなるビニールの高周波加工技術を駆使し事業を拡大。中でも「ビニールポンチョ」は同社の考案で、当時のゴム素材をベースにした重いポンチョから、軽量・安価で利便性の良い製品の開発、普及に貢献しました。昭和28年、株式会社サンビを設立。現在はビニールの製品・加工から撤退、布帛織物をメインにスポーツ衣料の縫製業として取引先を拡大しています。ものづくりの90%を中国で展開。独自技術の開発を進め、個別提案から量産まで顧客ニーズに応える生産体制を構築しています。

企画・素材提案から輸出入・生産までの一括生産システムを備えており、短納期・小ロットを実現しています。

代表取締役社長 田上 晴久さん



■主な事業内容
スポーツ衣料製造・卸業

■主な取引先（納入先）
大手スポーツメーカー、
その他関連商社など

住 所／〒577-0007
東大阪市稲田本町
2-7-22
T E L／06-6745-1333
F A X／06-6745-4949
創 業／昭和27年
設 立／昭和28年10月
資本金／5,000万円
従業員／38名

<http://www.sanvi.jp>